

第5回

お話と体験3

(1) プログラム

日時 | 10月1日(土) 9:30 ~ 12:15

会場 | 江東区文化センター6階 第1~3会議室

内容 | ゲスト3のお話と体験

・3人目のゲストのお話と、お話に関連した体験を行いました。

タイムテーブル |

- 9:30 (10分) あいさつ・本日の進め方
- 9:40 (40分) 【ゲスト3 | お話】 バリアフリー活弁士 檀 鼓太郎さん
- 10:20 (10分) ~休憩(会場設営)~
- 10:30 (45分) 【ゲスト3 | 体験】 音声ガイドに挑戦!
グループワーク | 3グループにわかれて音声ガイドを考える
- 11:15 (45分) 全体 | 発表(10分) + ゲストからコメント(5分) × 3グループ
- 12:00 (10分) ゲストによる音声ガイド実演
- 12:10 (05分) 個人ワーク | 感想を記録

(2) ゲスト3のお話

バリアフリー活弁士

檀 鼓太郎 (だん こたろう) さん

目の見える人も見えない人も一緒に楽しめる、バリアフリー活弁士をされています。映画、演劇、コンサートの音声ガイドや、視覚障害者向けのプロレス実況解説等もされています。

▶音声ガイドとはどんなものかを実感

●1回目《音のみ》で聞いてみる

- ・映像を流さず、映画の《音のみ》を聞きました。聴覚障害者には、手話通訳者が聞こえる音をできるだけ伝えました。
- ・《音のみ》で「どんな映像が浮かぶか」「何がわかって何がわからないか」を実感しました。
 - 感想 (視覚障害者)
 - バスか電車等、なにか乗り物に乗っているみたい。
 - 何か食べている。どんな形や色のものを食べているのかな？
 - 感想 (見える人)
 - 女性2人旅だということはわかった。年齢やどんな感じの人かはわからない。
 - 音楽が流れている部分は、どんな景色なんだろうと気になった。

●2回目《音+音声ガイド》で聞いてみる

- ・映画の音声に檀さんの音声ガイドを付けて聞きました。映像はまだ観ないため、参加者は目をつぶって聞きました。
 - 感想 (視覚障害者)
 - 先ほど気になった食べ物が、「おいしそう」に感じた。
 - ちょっと高い声で声色が違うセリフは、別の人と話しているのかと思ったが、指人形が主人公の気持ちを代弁していることがわかり、なるほど面白いとクスリと笑えた。
 - 感想 (見える人)
 - 風景がちょっと見えてきた。《音のみ》で聞いた時より集中して聞けて、短く感じた。

●3回目《音+音声ガイド+映像》で観て聞いてみる

- 感想 (視覚障害者) (見える人)
 - 主人公の女の子の表情等がよくわかった。

(3) 体験3 音声ガイドに挑戦!

●体験のねらい

- ・どんな情報があるか、大切な情報はなにか、それをどのような言葉やタイミングで伝えると伝わりやすいかを考えました。

●進め方

- ・3グループにわかれます。各グループで、映像が違います。
- ・各グループ映像を3回観ます。

《1回目 映像を観る》

- ・観終わったあと、どんな情報があったか、記憶に残っている内容を出しあいます。
- ・視覚障害者には、「音声ガイドモニター」の役割をお願いします。最初に音だけで聞いた時に、「何がわかって、何がわからなかったのか？」を教えてください。
- ・視覚障害者の疑問に答える形で情報を伝えて、音声ガイドのベースをつくります。

《2回目 映像を時々止めながら、どんな情報を伝えるとよいかを話しあう》

- ・全体でとりまとめます。
- ・字幕が必要なものは、字幕を読み上げる担当者を決めます。
- ・音声ガイドを担当する人も決めます。

《3回目 とりまとめた内容を、動画を止めずに流して、音声ガイドを入れて観る》

- ・各グループで発表します。

▶檀さんが音声ガイドの時に気をつけている「基本のき」

- ・音声ガイドの基本は、登場人物の顔と名前を覚え、その上で誰が話や行動をしているのかを伝えること。
- ・どんな場所なのか（地名や特徴ある風景）を伝えること。
- ・音声ガイドをセリフにかぶせてしまうと、かえってわかりにくくなる場合もあるので注意を払うこと。

(4) お話と体験の感想 (○付き数字はグループ番号)

1 音声ガイドの必要性

■音声ガイドの必要性

- ・生活面の環境整備だけでなく、エンターテインメントを楽しめる環境も大切だと感じた。①
- ・見えない人に、表情や情景をガイドすることが大切なことを学んだ。①
- ・《音声のみ》は情報量が少なくぼんやりしたイメージだったが、音声ガイドがつくと細かなニュアンスがつかめた。②

■視覚情報は多くて速い、音の情報は少ない

- ・目から入ってくる情報は多くて速いと気づいた。音だけだと集中力が続かなかった。①
- ・視覚による情報がとても多いことを再認識。①
- ・耳からの情報だけで映画を見たら、いかに情報量が少ないのかということに改めて感じた。③
- ・目を閉じて映画鑑賞することで、視覚障害者が何を感じているかに近づくことができた。②
- ・主な登場人物の名前を確認して覚えておくと、その人の声以外の動きが説明しやすくなる。②
- ・情報は目から8割、耳から2割と聞いたことがあるがそれを実感。②

2 相手の必要な情報を伝える

■何を伝えるか、視覚情報を中心に伝える

- ・人の顔の表情やちょっとした仕草でその人の内面を表現できることを説明できればよい。②
- ・情景や色についてもう少し解説してもらえるとよい(視覚障害者)。③
- ・セリフからわかることは言わず、表情等を伝えるのは「なるほど」と思った。①
- ・本来の映画の良さを邪魔しない情報の取捨選択、入れ方がいかに難しいかを思い知った。③
- ・色や表情等、当たり前に見えている中から伝えるものを選ぶ難しさを感じた。③
- ・気になる音でも大切ではない情報、詳しく説明するとわかりにくい情報もある。③
- ・音声で聞き取ることのできる情報は伝える必要がない。伝達の取捨選択が重要だというお話に納得。ガイドの難しさを感じた。③
- ・伝える際に、既に言われていることも説明してしまいがち。そこが難しかった。②
- ・自分では的確に伝えているつもりでも、違うこ

ともある。本当に求めている人の立場に立って改めて考えていきたいと思う。②

- ・伝えたい情報、伝えて欲しい情報を取捨選択し、言葉にする難しさを知った。見えない人の必要な情報を知る機会となった。②

■状況を伝えたり言葉を選ぶのが難しかった

- ・見えているものの説明を、見えない方にわかりやすく伝えるのは難しい。①
- ・見たものを見たまま伝えているつもりでも、伝わらないものだと感じた。③
- ・登場人物はどんな人か(男女等)、どんな感情なのかを把握し、伝える難しさを実感。①
- ・風景等の言語化は意外と難しいと感じた。③
- ・情報を端的に臨場感あふれるように伝えることの大切さと難しさを感じた。様々なことに気を配らなくてはならないのだと思った。③
- ・音声ガイドを文章にするのは難しい。③
- ・音声ガイドを美術館や博物館で利用したが、つくる側になるとは想像したことがなかった。解説者は素晴らしい。言葉選びも大切。短時間に何を伝えることがベターなのか。①
- ・手話を音声ガイドする難しさを感じた。①
- ・情報の取捨選択が難しい。自分の感性で見ているものと必要な情報が違うことがある。②
- ・見たままを説明するのか、映像の意図を含めて説明するのか等、線引きが難しかった。②
- ・音声ガイドは照れがあるとうまく伝わらない。①

3 その他

■楽しかった

- ・登場人物の表情に現れる感情を言葉にすると面白くなる。①
- ・自分に向いているボランティアを見つけた!と思えたほど楽しかった。①
- ・気づきが多く本当に楽しかった。②

■今後に向けて

- ・時間をかけて言葉を選んで、音声ガイドをつけてみたい(視覚障害者)。③
- ・見える人の意見をもっと聞きたい(視覚障害者)。②
- ・音声ガイドのアプリを、みんなにもっと使ってほしい(視覚障害者)。②
- ・盲ろう者に伝えることも考えたい。①